

## 4 研修

当所は、農林水産省の養成研修の一つとして、農林水産省における経済関係行政の企画にあたるべき職員の養成を目的とする経済関係企画職員研修を、大臣官房秘書課長の委嘱により実施している。この研修は、昭和25年に農林事務次官の要請によって開始されて以来、平成13年度をもって55回を数えるに至っている。期間は平成13年4月23日から同年9月7日に至る4カ月半で行った。今回の全課程を修了した研修受講者2名を加えて、本研修の修了者は675名となる。

研修の運営は当所に委任されているので、当所では研修委員会を設けて、教科課程その他の運営の大綱に関する事項を審議・検討し、実施している。委員会は、所長、次長、企画連絡室長、各部長、研修担当官、その他をもって構成されている。経常的な運営は企画連絡室長白石和良、企画連絡室主任研究官會田陽久（研修担当官）、企画連絡室研修課長阿部清一が担当した。

### (1) 研修生

研修生は、原則として国家公務員 種採用試験による職員で、概ね4、5年の実務経験を有し、近い将来において経済関係の企画行政に当たるべき者として、各部局長が推薦した者の中から大臣官房秘書課長の選考を経て決定される。しかし、本年度は本省からの全期間の研修参加者はなく、一部の参加者のみであった。

なお、研修には農林中央金庫、農林漁業金融公庫から各1名が参加している。また、本年度は都道府県職員を対象とした短期研修を試行した。

### (2) 個別研究及び助言者

本研修の特色の一つとして、研修生に個別研究課題をもたせ、助言者（当所研究職員）の指導のもとに研修修了時まで各自論文をまとめることとしている。今回の研修生の論文は『第55回研修報告』に収録した。助言者は、研修生の個別研究の課題を考慮しつつ、当所の研究職員のなかから委嘱することとしている。第55回研修生の氏名・所属部課・個別研究課題及び助言者は次のとおりである。

氏名	所属	個別研究課題	助言者
一島 匡	農林漁業金融公庫 人事部付	稲作経営の販売戦略 東北・北陸地域の事例を踏まえた一考察	恒川 磯雄
吉森 一樹	農林中央金庫 本店付	コンジョイント分析による棚田の多面的機能と環境付加の経済評価 千葉県鴨川市を対象として	吉田謙太郎

### (3) 講義及び演習

第55回研修は、基礎講義・演習9課目71回、応用講義・演習25課目64回、特別講義1回の講義及び演習を行った。その内容は次のとおりである。

課 目	講 師	時間数
《基礎講義・演習》	( は所外 )	
経済学の思想と理論	伊藤 誠	16
近代経済学 (マクロ経済学)	松村 敏弘	24
" (ミクロ経済学)	松村 敏弘	24
金融論	山中 尚	10
農業経済学	宇佐美 繁	12
"	生源寺 真一	12
統計学(統計理論・演習)	稲葉 弘道	22
国際経済学	馬場 宏二	10
財政学	三井 清	12
《応用講義・演習》		
経済政策論	伊東 光晴	8
日本経済論	橋本 寿朗	16
戦後農政史論	岩本 純明	8
農業法制	増田 直弘	4
消費者問題と法	本城 昇	4
フ・ドシステム論	高橋 正郎	6
森林経済学	加藤 隆	4
水産経済学	田坂 行男	4
環境・公共経済学	鬼木 俊次	4
環境評価と費用便益分析	吉田 謙太郎	4
情報検索演習(インターネット)	吉田 敦子	2
"	新井 光秋	
現代農業経済概論・農政論	嘉田 良平	14
"	橋詰 登	
"	相川 良彦	
"	恒川 磯雄	
"	江川 章	
"	秦 隆夫	
"	堀越 孝良	
食品産業論	薬師寺 哲郎	4
フードシステムと農産物流通	小林 茂典	4
国際農産物貿易	千葉 典	4
E U 農業	吉永 健治	2
フランス農業	石井 圭一	2
ドイツ農業	市田 知子	2
アメリカ農業	立川 雅司	4
旧ソ連地域農業	野部 公一	4
中国農業	白石 和良	4
開発途上国農業	井上 莊太郎	4
農業問題懇談会	香月 敏孝	2
"	小野 智昭	
農協問題	両角 和夫	4
農協概論	両角 和夫	4
農業金融論	楠本 雅弘	4
論文の書き方	會田 陽久	2
《特別講義》		
農政・農業講話	大河原 太一郎	2

#### (4) 現地実態調査

現地実態調査は、本研修の主要な構成要素の一つであり、農林水産業の実態について認識を深め、農林水産行政の課題等を理解する目的で、毎年実施している。本年は全研修課程を受講し、研修論文の執筆を行う研修生が2名であったので、各自の研修論文の執筆に必要な調査を出張という形で行ってもらった。研修論文の構想を練り準備を進める段階で、自主的に調査地を決め、各自で準備し実行した。

#### (5) 研修報告

以上の研修成果をとりまとめて『第55回研修報告』を発行した。本報告書に研修業務総括報告、研修についての研修生の感想、意見、反省及び個別研究論文を収録した。